

令和 2 年 度 高等学校新入生徒の学力に関する研究（国語）

愛知県総合教育センターでは、愛知県国語教育研究会高等学校部会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校等において、その新入生徒を対象に国語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

本研究は、次の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 調査問題の構成とねらい，科別・大問別・小問別正答率，群別正答率比較表など
- (3) 調査問題及び解答例，応答分析，考察，指導上の留意点など

<検索用キーワード>

国語 高等学校 中学校 中高連携 学力調査 正答率 応答分析 読解力

研 究 会 委 員

愛知県立明和高等学校教諭	本部 亜矢子
愛知県立守山高等学校教諭	清野 万葉
愛知県立熱田高等学校教諭	竹内 麻由
愛知県立南陽高等学校教諭	佐久間 綾花
愛知県立天白高等学校教諭	林 雄一
愛知県立旭野高等学校教諭	廣瀬 民
愛知県立新川高等学校教諭	日比野 奈津子
愛知県立東海商業高等学校教諭	宇都木 達
愛知県立岡崎高等学校教諭	垣見 優太
愛知県立蒲郡高等学校教諭	前田 晶紀
愛知県総合教育センター研究指導主事	三浦 千加子（主務者）

目 次

1 調査の趣旨	2
2 調査の実施及び処理	2
3 調査結果の概要	3
4 分析結果の概要	3
5 調査問題の構成及び正答率	4
6 調査問題（一部掲載省略）及び解答	7
7 問題別応答分析と指導上の留意点	
(1) 大問 [一] 現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	9
(2) 大問 [二] 現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	13
(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点	17
(4) 大問 [四] 古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点	21

1 調査の趣旨

この調査は、昭和30年度以来、名古屋地区国語研究会が中心となって、県内の国公立高等学校の新入学生徒を対象に実施してきた。昭和45年度からは、愛知県総合教育センター（昭和40年度より事業に参加）と愛知県国語教育研究会高等学校部会との共同研究調査として、調査問題の作成、統計的処理、結果の考察等を行っている。この調査は、次の資料を得ることを目的としている。

- ア 中学校及び高等学校における国語教育に関する基礎資料
- イ 中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
- ウ 全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力を捉えるための参考資料

2 調査の実施及び処理

(1) 実施の時期及び処理

各校の合格者発表後、3月下旬から6月中旬までの間に、各校の実状に応じて適宜調査を実施した。なお、解答時間は50分とした（問題用紙はA4判右綴じ、解答用紙はA4判1枚）。

(2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった42校（2学科以上ある参加校はそれぞれの学科を1校とした）の7,535名について諸調査統計の処理をした。内訳は表1のとおりである。

（表1）

課 程	全 日 制				定 時 制	全 体
	普通科	総合学科	家庭科系	その他		
学 科	普通科	総合学科	家庭科系	その他		
学 校 数	30	2	4	6	0	42
生 徒 数	6,599	479	194	263	0	7,535

(3) 統計上の調査事項

各参加校には次の事項について回答を求めた。

ア 個人別得点分布

イ 各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点

注 「群別正答率比較表」（6ページ）のA・B・C群は、(3)イの「各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点」を基に各学校を順位付けし、上位3校の抽出生徒100人程度をA群、平均点付近の学校の抽出生徒100人程度をB群、下位11校の抽出生徒100人程度をC群とし、調査対象としたものである。

(4) 小問別応答分析等（詳細分析は9ページから24ページまで）

4校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって、a群＝上位100人、b群＝中位100人、c群＝下位100人に分け、答案に直接当たって応答分析を行った。

なお、各群間の差がほぼ等間隔で付く場合は、〈a-b-c型〉、a群とb群、b群とc群との間隔の差が2：1程度以上で付く場合は、〈a-b c型〉、その逆の場合は、〈a b-c型〉、各群の間隔の差がほとんどない場合は、〈a b c型〉として分類してある。

3 調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて、平均点・標準偏差をみたのが、次の表2である。

(表2)

学科別 得点	普通科		総合学科		家庭科系		その他		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	91	1.4	1	0.2	0	0.0	1	0.4	93	1.2
80～ 89	380	5.8	4	0.8	1	0.5	6	2.3	391	5.2
70～ 79	888	13.5	7	1.5	4	2.1	21	8.0	920	12.2
60～ 69	1,238	18.8	39	8.1	16	8.2	26	9.9	1,319	17.5
50～ 59	1,318	20.0	70	14.6	40	20.6	50	19.0	1,478	19.6
40～ 49	1,169	17.7	113	23.6	51	26.3	54	20.5	1,387	18.4
30～ 39	806	12.2	128	26.7	53	27.3	55	20.9	1,042	13.8
20～ 29	454	6.9	83	17.3	17	8.8	38	14.4	592	7.9
10～ 19	197	3.0	32	6.7	11	5.7	12	4.6	252	3.3
0～ 9	58	0.9	2	0.4	1	0.5	0	0.0	61	0.8
平均点	53.4		45.5		42.6		40.2		52.0	
標準偏差	18.5		17.2		14.1		14.9		18.6	

4 分析結果の概要（詳細分析は9ページから24ページまで）

(1) 論理的な文章（大問〔一〕）を読む力について

若松英輔『言葉の羅針盤』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問一全体の正答率は53.8%と低くはなかったが、本文の主旨に関わる小問四の正答率は25.0%にとどまった。今後は、文章の内容を理解するだけでなく、論の展開や構成の工夫などを読み取ることからも筆者の主張を理解できるように指導する必要がある。

(2) 文学的な文章（大問〔二〕）を読む力について

梨木香歩著『西の魔女が死んだ』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問二全体の正答率は64.6%だが、登場人物の細かな心情変化の理由を問う小問三の正答率は46.8%であった。今後は、さまざまな表現に触れて語彙を豊かにするとともに、文章中の描写を根拠に、登場人物の微妙な心情の移り変わりを読み取ったり推測したりする学習活動を充実させる必要がある。

(3) 国語基礎力（大問〔三〕）について

前半は情報の理解と整理について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。大問三全体の正答率は45.8%と大問の中で最も低く、基礎的な国語力に課題があることが分かった。前半の問いでは、複数の資料から必要な情報に着目し、情報と情報を関連付けて内容を把握する力が必要であった。今後は、読み取った情報の扱い方についての学習とともに、基本的な論理的思考力を身に付けることができるように指導する必要がある。

(4) 古文（大問〔四〕）を読む力について

鎌倉時代中期の説話集『十訓抄』より出題した。大問四全体の正答率は49.8%で、古典の基礎的な知識に課題があることが分かった。また、2つの話に共通する主題を読み取ることも難しかった。今後は、昔の人々の文化や、ものの見方・感じ方・考え方について生徒が関

心をもつことができるよう、古典学習の指導を工夫する必要がある。

5 調査問題の構成及び正答率

(1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は、現代文2題（論理的な文章と文学的な文章）、国語基礎力1題及び古典（古文）1題によって構成した。各小問のねらいや配点を表3に示す。

（表3）

大問	分野・領域	小問	小問のねらい	設問形態	小問数	配点
一	現代文 (論理的な文章)	一	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		二	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		三	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		四	内容の理解	記述	1	6×1
		五	主旨の理解	選択 (1/5)	1	6×1
		六	文章の構成や展開の理解	選択 (1/5)	1	6×1
					<6>	計30点
二	現代文 (文学的な文章)	一	心情の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		二	内容の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		三	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		四	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		五	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		六	表現の理解	記述	1	4×1
					<6>	計20点
三	国語基礎力 (漢字・語彙等)	一	情報の理解と整理	選択 (1/5)	1	2×1
			(1)発言の意味の理解	選択 (1/5)	1	2×1
			(2)発言の根拠の理解	選択 (1/5)	1	3×1
			(3)資料の適切な読み取り	選択 (1/5)	1	3×1
		二	(4)話し合いにおける役割の理解	選択 (1/5)	1	3×1
			否定の接頭語の理解	選択 (2/5)	1	2×1
三	書き言葉についての理解	選択 (1/5)	1	2×1		
四	助動詞の知識	選択 (1/5)	1	2×1		
五	四字熟語についての理解	選択 (1/5)	1	2×1		
六	漢字の読みと書き取り	記述	6	2×6		
					<14>	計30点
四	古典 (古文)	一	歴史的仮名遣いの確認	記述	1	2×1
		二	内容の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		三	内容の理解	記述	1	4×1
		四	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		五	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		六	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
					<6>	計20点

(2) 科別・大問別・小問別正答率

次の表4は、各校の、無作為に抽出された10%の生徒の得点を処理して、正答率(%)を求めたものである。〔小計欄の正答率は、各小問の加重平均〕

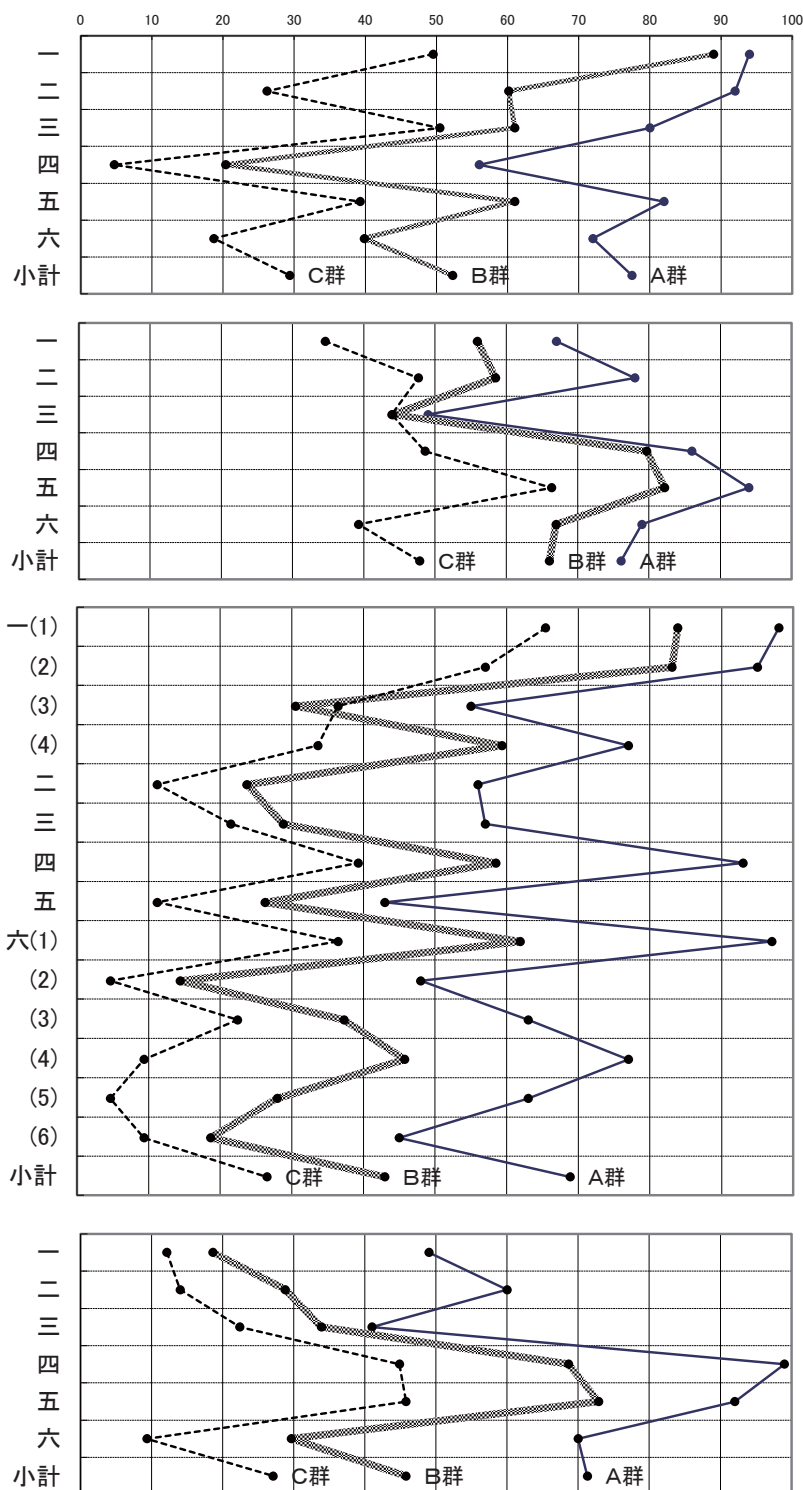
(表4)

大 問	学 科		普通科 672名	総合学科 48名	家庭科系 20名	その他 31名	全体 771名
	小問	配点					
一	一	4	82.1	66.7	70.0	80.6	80.8
	二	4	66.4	50.0	25.0	54.8	63.8
	三	4	65.6	64.6	40.0	48.4	64.2
	四	6	27.2	10.4	0.0	16.1	25.0
	五	6	64.7	41.7	50.0	64.5	62.9
	六	6	42.9	27.1	55.0	29.0	41.6
	小計	30	55.5	40.0	39.0	46.5	53.8
二	一	2	55.4	39.6	75.0	45.2	54.5
	二	2	65.6	60.4	75.0	45.2	64.7
	三	4	46.1	54.2	40.0	54.8	64.8
	四	4	71.6	72.9	60.0	64.5	71.1
	五	4	84.1	87.5	95.0	77.4	84.3
	六	4	62.4	47.9	65.0	48.4	61.0
	小計	20	64.9	62.5	67.0	58.1	64.6
三	一(1)	2	86.9	77.1	80.0	80.6	85.9
	一(2)	2	82.3	83.3	80.0	64.5	81.6
	一(3)	3	38.3	33.3	45.0	16.1	37.3
	一(4)	3	59.7	37.5	40.0	38.7	56.9
	二	2	29.8	14.6	25.0	16.1	28.1
	三	2	36.5	27.1	10.0	38.7	35.3
	四	2	69.0	50.0	45.0	58.1	66.8
	五	2	24.4	8.3	10.0	9.7	22.4
	六(1)	2	69.9	41.7	65.0	67.7	68.0
	六(2)	2	22.5	16.7	10.0	6.5	21.1
	六(3)	2	40.0	33.3	35.0	41.9	39.6
	六(4)	2	44.6	10.4	25.0	32.3	41.5
	六(5)	2	37.1	16.7	15.0	16.1	34.4
	六(6)	2	21.4	8.3	15.0	22.6	20.5
小計	30	47.4	32.9	36.2	35.8	45.8	
四	一	2	28.6	20.8	25.0	32.3	28.1
	二	2	38.2	22.9	20.0	32.3	36.6
	三	4	32.7	27.1	35.0	41.9	32.8
	四	4	76.5	60.4	70.0	67.7	75.0
	五	4	73.4	64.6	75.0	74.2	72.9
	六	4	37.8	20.8	15.0	29.0	35.8
	小計	20	50.8	39.0	43.5	49.0	49.8

(3) 群別正答率比較表

(表5)

大問	小問	A群	B群	C群
一 論理的 文章	一	94.0	89.0	49.5
	二	92.0	60.2	26.2
	三	80.0	61.0	50.5
	四	56.0	20.3	4.7
	五	82.0	61.0	39.3
	六	72.0	39.8	18.7
	小計	77.5	52.3	29.3
二 文学的 文章	一	67.0	55.9	34.6
	二	78.0	58.5	47.7
	三	49.0	44.1	43.9
	四	86.0	79.7	48.6
	五	94.0	82.2	66.4
	六	79.0	66.9	39.3
	小計	76.1	66.0	47.9
三 国語 基礎力	一(1)	98.0	83.9	65.4
	(2)	95.0	83.1	57.0
	(3)	55.0	30.5	36.4
	(4)	77.0	59.3	33.6
	二	56.0	23.7	11.2
	三	57.0	28.8	21.5
	四	93.0	58.5	39.3
	五	43.0	26.3	11.2
	六(1)	97.0	61.9	36.4
	(2)	48.0	14.4	4.7
	(3)	63.0	37.3	22.4
	(4)	77.0	45.8	9.3
	(5)	63.0	28.0	4.7
	(6)	45.0	18.6	9.3
小計	68.9	43.0	26.5	
四 古文	一	49.0	18.6	12.1
	二	60.0	28.8	14.0
	三	41.0	33.9	22.4
	四	99.0	68.6	44.9
	五	92.0	72.9	45.8
	六	70.0	29.7	9.3
	小計	71.3	45.8	27.1



(注) A・B・C群については、「2 調査の実施及び処理」(2ページ)の注を参照。

6 調査問題（一部掲載省略）及び解答

【三】 次の問いに答えよ。

問一 1年△組では文化祭の模擬店で販売する食品の候補を決めるため、クラスの実行委員が話し合いを行っている。次の【会話】【資料1】【資料2】を踏まえて、あとの問いに答えよ。

【会話】

生徒A それでは候補を絞っていくけど、タピオカドリンクについては、^①もういいよね。

生徒B うん、そう思う。次に票が多かったのは、綿菓子だったよ。綿菓子を販売候補とする^②ことに何か問題はありますか？

生徒C 特に問題はないですよ。

生徒D 綿菓子でも問題はないと思うけど、ポップコーンの方がいいのではないかな。だてて、
②

生徒A Dさんの言うように、それらの方が、クラスの皆の希望に合っているね。

生徒C そうだね。

生徒B まずはクラスの企画書をまとめて、生徒会に提出しなければならぬね。

生徒C やさしいがいろいろあるけど、^③販売順位を考慮していいかなとね。

生徒A 確かに。それでは、これくらいは調べていこう。

【資料1】

●生もの（寿司類、刺身）
●パン・ベー・貝類等
●販売希望食品の第2希望まで企画書を提出し、生徒会が審査の上、食品の販売を許可する。
(3) 企画書には、調理に関する作業工程と道具を発注する予定の業者を明記する。
(4) ゴミは分別し、指定された場所に捨てる。
第5条（ゴミの処理について）
(1) ゴミは分別し、指定された場所に捨てる。
(2) ゴミの削減・再利用に努める。
…

文化祭規約【抜粋】
第1条（予算について）
各クラスは補助金の2万円以内で企画・運営を行う。
…
第4条（食品の取り扱いについて）
(1) 食品を取り扱う際には、事前に生徒会を通し、保健所に申請（検便）、許可を受けなければならない。
(2) 以下の食品は販売できない。
●米飯・パン類
（おにぎり、サンドイッチ）

【資料2】

メモ（1回目のクラス会議の結果）		
<食品>	<票数>	<調理にかかるとる経費>
綿菓子	20	1万9千円
タピオカドリンク	30	1万4千円
ポップコーン	16	1万5千円
焼きそば	4	1万5千円
ホットケーキ	14	1万3千円

— 皆の希望 —
 ・お客さんを待たせたくない。
 ・模擬店の飾りつけを見栄えよくしたい。
 ・クラス全員が活躍できるようにしたい。
 ・たくさんのお客さんに来てほしい。

- (1) 傍線部①「もういいよね」とあるが、その発言の意味として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
- ア 文化祭規約の第4条で禁止されているため、候補から外すべきである。
 イ 調理にかかる経費を最も低くできるため、第一希望としてふさわしい。
 ウ 間違いないとたくさんの客が買ってくれるため、候補に残した方がよい。
 エ 文化祭規約に違反せず、多くの生徒が投票したので、第一希望でよい。
 オ 審査によって販売が認められない可能性が高いので、考え直すべきだ。
- (2) ②に当てはまる言葉として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
- ア 綿菓子だと、上手に形を整えて作ることが難しいからね。
 イ 綿菓子だと、お店の飾りつけに当てるお金が少ないからね。
 ウ 綿菓子だと、ゴミが多くなってしまい迷惑をかけてしまうからね。
 エ ポップコーンの方が、綿菓子よりもおいしそうだからね。
 オ ポップコーンの方が、他のクラスと重なる可能性が低いからね。

- (3) 傍線部③「優先順位」とあるが、今後必要になる準備として最も優先順位が高いものを次から選び、かな符号で答えよ。
- ア 模擬店を運営する際の、飾りつけや店番などの分担を決める。
 イ 模擬店を運営する際の、調理と接客のマニュアルを作る。
 ウ 模擬店を運営する際の、必要な食材や機材を業者に発注する。
 エ 販売する食品の、チラシの大きな販売枚数を決める。
 オ 販売する食品の、調理に必要な時間や方法についてまとめる。
- (4) 【会話】における生徒A・Bの役割として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
- ア 生徒Aは、自分の考えは言わないように気をつけて、話し合いを円滑に進行する役割に徹している。
 イ 生徒Aは、意見が対立した場合であっても、論点を明らかにしながら慎重に話し合いを進めている。
 ウ 生徒Bは、資料に基づいて話し合いに方向性を与えたり、必要な事柄について確認しつづけている。
 エ 生徒Bは、他の生徒の発言に対して異論を唱えつつ、生徒Aと共に話し合いの中心的役割を担っている。
 オ 生徒Bは、他の生徒の意見に同意しつつも、周囲が気付かない問題点を投げかけて、注意を促している。

問二 次の□に入る否定の意味を示す語が同じになるものを二つ選び、それぞれかな符号で答えよ。

- ア □始末 イ □合法 ウ □秩序 エ □成熟 オ □課税

問三 次の文の中で書き言葉の表現として正しいものを二つ選び、かな符号で答えよ。

- ア 今日の映画は短編だが、すごく感動した。
 イ いろんな境遇で、自分の長所を生かしたい。
 ウ すべてを完璧にしようとする必要はない。
 エ やつぱり私の思った通りの結果であった。
 オ この書類は重要だ。なので、確認すべきだ。

問四 次の傍線部と文法的に同じものを含む文をあとから一つ選び、かな符号で答えよ。

この道を通ると、彼女のことが思い出される。

- ア この車には、重荷物も載せられる。
 イ 先生が本軍なことを語られる。
 ウ 土砂崩れで川がまき止められる。
 エ 故郷のことがしはれる。
 オ けんかが原因は淋に泣かれる。

問五 次の傍線部の四字熟語の使い方として正しいものを二つ選び、かな符号で答えよ。

- ア 社会人になったら、思慮分別のある行動を慎む必要がある。
 イ 周りがどねばは騒いこうとも、彼だけは泰然自若としていた。
 ウ 私は焦って当惑しな答えを言い、皆に笑われてしまった。
 エ 多くの参加者が異口同音に、さまざまな意見を交わしていた。
 オ 千載一遇のことだと見過ごしている中に、大事なことがある。

問六 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

- (1) 執筆や講演をイライする。
 (2) キフクの少ない耳順。
 (3) 風が強いので外出をリ列える。
 (4) 思わず嘲舌をもらす。
 (5) 労働者が不穏を顕る。
 (6) 字間の視野を広げる。

【四】 次の文章を読み、次の問いに答えよ。

朱買臣、文の道は當りしからず、家貧しかけり。年ころの妻、住みわびて、
朱買臣は、文の道は當りしからず、家貧しかけり。年ころの妻、住みわびて、
 朱買臣が、文の道は當りしからず、家貧しかけり。年ころの妻、住みわびて、
 朱買臣が、文の道は當りしからず、家貧しかけり。年ころの妻、住みわびて、
 暇をこぶに、「いま年を得て」としたひをしめども、聞かずして別れ去りぬ。
暇をこぶに、「いま年を得て」としたひをしめども、聞かずして別れ去りぬ。
 暇をこぶに、「いま年を得て」としたひをしめども、聞かずして別れ去りぬ。
 暇をこぶに、「いま年を得て」としたひをしめども、聞かずして別れ去りぬ。
 その年の、買臣、古川の会稽の守になりて赴く時、かの妻、国の民の妻とな
その年の、買臣、古川の会稽の守になりて赴く時、かの妻、国の民の妻とな
 その年の、買臣、古川の会稽の守になりて赴く時、かの妻、国の民の妻とな
 その年の、買臣、古川の会稽の守になりて赴く時、かの妻、国の民の妻とな
 りて、買臣に見えにけるを、恥ら悲しみて、消え入りになりとなむ。
りて、買臣に見えにけるを、恥ら悲しみて、消え入りになりとなむ。
 りて、買臣に見えにけるを、恥ら悲しみて、消え入りになりとなむ。
 りて、買臣に見えにけるを、恥ら悲しみて、消え入りになりとなむ。
 呂尚父が妻、同じく家を□□で、離れにけり。呂尚父、王の師となりて、
呂尚父が妻、同じく家を□□で、離れにけり。呂尚父、王の師となりて、
 呂尚父が妻、同じく家を□□で、離れにけり。呂尚父、王の師となりて、
 呂尚父が妻、同じく家を□□で、離れにけり。呂尚父、王の師となりて、
 いみじかりける時、かの妻、婦り来て、もとのごとくあらむことをこひのぞむ。
いみじかりける時、かの妻、婦り来て、もとのごとくあらむことをこひのぞむ。
 いみじかりける時、かの妻、婦り来て、もとのごとくあらむことをこひのぞむ。
 いみじかりける時、かの妻、婦り来て、もとのごとくあらむことをこひのぞむ。
 その時に、呂尚父、種一つを取り出でて、「これに水入れよ」といふまゝに入
その時に、呂尚父、種一つを取り出でて、「これに水入れよ」といふまゝに入
 その時に、呂尚父、種一つを取り出でて、「これに水入れよ」といふまゝに入
 その時に、呂尚父、種一つを取り出でて、「これに水入れよ」といふまゝに入
 れつ。「こぼせ」といふば、こぼしけり。さて、「もとのやうに返し入れよ」
れつ。「こぼせ」といふば、こぼしけり。さて、「もとのやうに返し入れよ」
 れつ。「こぼせ」といふば、こぼしけり。さて、「もとのやうに返し入れよ」
 れつ。「こぼせ」といふば、こぼしけり。さて、「もとのやうに返し入れよ」
 といふ時、妻歎ひて、「土にこぼせる水、いかでか返し入れむ」といふ。呂尚
といふ時、妻歎ひて、「土にこぼせる水、いかでか返し入れむ」といふ。呂尚
 といふ時、妻歎ひて、「土にこぼせる水、いかでか返し入れむ」といふ。呂尚
 といふ時、妻歎ひて、「土にこぼせる水、いかでか返し入れむ」といふ。呂尚
 はいく、「汝、われに織履きしと、種の水をこぼせるに同じ。いまさら、
はいく、「汝、われに織履きしと、種の水をこぼせるに同じ。いまさら、
 はいく、「汝、われに織履きしと、種の水をこぼせるに同じ。いまさら、
 はいく、「汝、われに織履きしと、種の水をこぼせるに同じ。いまさら、
 □□にいかでか婦り住まむ」とそひける。
□□にいかでか婦り住まむ」とそひける。
 □□にいかでか婦り住まむ」とそひける。
 □□にいかでか婦り住まむ」とそひける。

これら、ものねたみにはあらざとも、貧しき世を忍びえず、心短をたくひなり。
これら、ものねたみにはあらざとも、貧しき世を忍びえず、心短をたくひなり。
 これら、ものねたみにはあらざとも、貧しき世を忍びえず、心短をたくひなり。
 これら、ものねたみにはあらざとも、貧しき世を忍びえず、心短をたくひなり。

※注 朱買臣（買臣）・呂尚父（呂尚） 古代中国の人物。
 会稽 古代中国の地名。

問一 波線部「したひをしめ」を現代かなづかい（ひらがな）で記せ。

問二 傍線部①「恥ら悲しみて」とあるが、誰が、どうして「恥ら悲し」んだのか。その組合せとして最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- 【誰が】 【どうして】
- ア 朱買臣が 妻が知らない間に別の人と再婚していたから。
 - イ 朱買臣が 自分が妻を虐待することができなかつたから。
 - ウ 妻が 出世した朱買臣が自分を顧ると思つたから。
 - エ 妻が 再会した朱買臣が新しい妻を連れていたから。
 - オ 妻が 自分が朱買臣の言葉を信じられなかつたから。

問三 □□に入る言葉を本文中から四字で抜き出して答えよ。

問四 傍線部②「もとのごとくあらむことをこひのぞむ」とあるが、妻は何を望んだのか。その説明として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 呂尚父がとても新しい生活をしているので、夫婦の關係の解消を望んだ。
- イ 呂尚父がとてもいはずいしているので、優しい呂尚父に長ぞうを望んだ。
- ウ 呂尚父がたまたま富み栄えたので、再び夫婦の關係に戻ることを望んだ。
- エ 呂尚父がとても金持らになつたので、質素な生活に戻ることを望んだ。
- オ 呂尚父がたまたま忙しくしているので、王の師を辭職することを望んだ。

問五 傍線部③「いかでか婦り住まむ」の解釈として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア どうして元のように住めないことがあるだろうか、住めないわけではない。どうして元のように住むことができるだろうか、住むことはできない。
- ウ どうして一纏に故郷に帰らないことがあるだろうか、ぜひ一纏に帰ろう。
- エ どうやって一緒に故郷に帰ることができるだろうか、一緒に考えよう。
- オ どうやって二人で住むことができるだろうか、その方法が思いつかない。

問六 傍線部④「心短を」の説明として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 朱買臣も呂尚父も、短気で怒りを抑えられなかつたといふこと。
- イ 呂尚父も呂尚父の妻も、お互いを信用できなかつたといふこと。
- ウ 朱買臣の妻も呂尚父の妻も、思慮に欠けはかであつたといふこと。
- エ 朱買臣妻も呂尚父妻も、貧しさに耐えられなかつたといふこと。
- オ 朱買臣妻も呂尚父妻も、相手への配慮を欠いていたといふこと。

令和二年度 新入生国語学力調査問題（解答と配点）

※かな符号で答えるべきところを選択肢の内容で答えた場合も正解とする。

【一】

問一	ウ	問二	オ	問三	ア	問四	か	け	が	え	の	問五	エ	問六	イ
----	---	----	---	----	---	----	---	---	---	---	---	----	---	----	---

問一～問三は各4点 問四～問六は各6点（小計30点）

【二】

問一	オ	問二	イ	問三	エ	問四	エ	問五	ウ	問六	こ	の	返	事	を
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	---	---	---	---

問一・問二は各2点 問三～問六は各4点（小計20点）

【三】

問一	(1)	エ	(2)	イ	(3)	オ	(4)	ウ		
問二	(オとイ)	(オとイ)	ウ	エ	イ					
問六	(1)	依	頼	(2)	起	伏	(3)	控	え	る
	(4)	た	ん	せ	い	(5)	こ	ろ	む	る
	(6)	す	そ	の						

問一(3)(4)は各3点 その他各2点（小計30点）

【四】

問一	し	た	い	お	し	め	問二	オ	問三	住	み	わ	び	問四	ウ	問五	イ	問六	ウ
----	---	---	---	---	---	---	----	---	----	---	---	---	---	----	---	----	---	----	---

問一・問二は各2点 問三～六は各4点（小計20点）

7 問題別応答分析と指導上の留意点

- ・表右端の％は、抽出校4校の生徒300人の正答率若しくは誤答率である。
- ・分析内容のゴシック体は、中学校学習指導要領（平成29年7月）の指導事項であることを示す。括弧の中の数字・記号の意味は、次の例のとおりである。

例：（中1(1)ア）…中学校第1学年〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項のA
 （中2Cイ）…中学校第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」のイ

(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問一	正答	ウ（「物」という言葉には確かに～）	100	91	63	254	84.7
	誤答	ア（「物」という言葉は現代では～）		3	18	21	7.0
		イ（「物」について「歴史は『物』～」）		3	11	14	4.7
		オ（「一人前になる」は人間とは～）		3	5	8	2.7
		エ（「一人前になる」はもともと～）			3	3	1.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はウ「『物』という言葉には確かに存在する何かという意味があるため」で、正答率は84.7％、高位の〈a b - c型〉を示している。

傍線部の後ろにある「そのため」に着目し、その指示内容が「確かに存在する何か」であることを読み取ることができれば、正答に至る。誤答ア・イを選択した生徒も、「物」という意味の使われ方を考えなければならないことは理解しているようである。

問二

小問	正誤	解答例	a群	b群	c群	合計	%
問二	正答	オ（呼吸をしたりみずから動いたり～）	93	73	29	195	65.0
	誤答	エ（人間を中心にしないで地球全体を～）	3	11	32	46	15.3
		イ（自然の様々なものに生命が宿って～）		7	22	29	9.7
		ウ（人間とは異なる姿かたちのものに～）	2	4	14	20	6.7
		ア（現代人にとって有益なものには～）	2	5	3	10	3.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はオ「呼吸をしたりみずから動いたりしているものに生命を感じるものの方」で、正答率は65.0％、〈a b - c型〉を示している。

本問では、生命観の捉え方を「古代／近代」の二項対立に着目して読んでいくことが求められる。そうすれば「古代」は9行目「岩は生命が宿る」というように、人間中心ではない生命観があるのに対し、「近代」においては17行目「自分と似た姿をして動いているもの」にしか生命を感じない人間中心の生命観が主であることが理解でき、正答に至る。誤答について特徴的なのは、イ・ウ・エのような「近代」とは反対の生命観に解答が集まっている点である。「近代」とは何かを理解しないまま、本文に書かれているかどうかだけでたどると、書いてあるものはどれも正解に見えると思われる。a・b群の正答率が高いのは、二項対立のレトリックに気が付き、「古代／近代」に整理して、丁寧な読解を行ったからであろう。本問でポイントになるのは、**目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力（中2Cイ）**であることから、文章を丁寧に読み、内容を整理させる指導をする必要がある。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア (～言葉と向き合い意味を掘り下げ～)	82	61	48	191	63.7
	誤答	イ (～できるようになることに喜びを～)	8	13	18	39	13.0
		エ (～思想や観念の理解に努める～)	7	17	8	32	10.7
		ウ (～人生の事件を解決しようとする～)	3	4	16	23	7.7
		オ (～未知なる語を手に入れようと～)		5	10	15	5.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はア「言葉を知性だけに頼って理解するのではなく、自分の体験を通して言葉と向き合い意味を掘り下げようとするということ」で、正答率は63.7%、〈a－b－c型〉を示している。

言葉を「知る」と「生きてみる」とについて、文脈に即して読み取る力が求められる。傍線部以降の文章を丁寧に読み、47行目からの段落にまとめられている、「一つの言葉の意味を」「これ以上は深めることができないというところまで掘り下げてみる」と「かけがえのない人生の一語を見出すことがある」という筆者の主張に気付くことができれば正答に至る。a・b群の生徒の誤答はイ・エが多く、言葉を「生きてみる」ことの読解に苦戦していることがうかがえる。言葉を「生きてみる」というなじみのない表現に対して、イ「生き生きと表現できるようになる」や、エ「思想や観念の理解に努める」等のもっともらしい表現に引っ張られ、思いこみで選んでしまったのではないか。ウ・オを選んだ生徒は、言葉を「知る」とことについての読解も十分ではない。本問でポイントになるのは、**文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること(中2Cア)**であることから、文章を例示と筆者の主張とに整理しながら、丁寧に読み進める指導をする必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	かけがえの	44	13	4	61	20.3
	誤答	認識するこ・十分に認識	12	36	27	75	25.0
		知性だけで	27	34	12	73	24.3
		生きる意味	8	7	6	21	7.0
		(その他)	8	8	35	51	17.0
		(無答)	1	2	16	19	6.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答は「かけがえの(ない人生の一語)」で、正答率は20.3%、低位の〈a－b c型〉を示している。

本文ではまず多くの言葉との出会いが記述される。そして、これらの中から「ふたたび遭遇」する言葉があると論を進めている。筆者はこの経験を重視して「歓喜」とまで表現しており、これが「かけがえのない」と言い換えられているのである。また、問六で問われている引用(小林秀雄「ランボオⅢ」)という手法も、この主旨を強調するために用いられている。こうした「かけがえのない人生の一語」に向かって論が収斂されていく展開を読み取るために、**観点を明確にして、文章の構成や論理の展開について考える(中2Cエ)**力が必要であるが、この展開に気付くことができず、目先の語句だけに着目したことが、正答率が低かった要因であろう。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	エ（子どものころに読んだ本が～）	83	59	41	183	61.0
	誤答	オ（本を読んだらすぐ実践してみる～）	9	18	28	55	18.3
		イ（本を読むためには、語彙が豊かな～）	6	16	13	35	11.7
		ウ（自分の大好きな本を友達に貸した～）	1	6	8	15	5.0
		ア（みんな物知りだから、自分が本を～）	1	1	7	9	3.0
		（その他）			2	2	0.6
		（無答）			1	1	0.3

本文の主旨を理解する問題である。正答はエ「子どものころに読んだ本がふと気になって、改めて読んでみたら、当時とは違って心に残る場合があるよね」で、正答率は61.0%、〈a－b－c型〉を示している。

本文の主旨を、選択肢にある生徒たちの発言のようなさまざまな日常的表現に具現化できれば正答に至る。誤答オ「本を読んだらすぐ実践してみる事が大事」は、筆者が言う、言葉を「生きる」ことについて「実践することを推奨している」と考えてしまったのだろうか。また、誤答イ「語彙が豊かな方がいい」は、言葉を「知る」ことの重要性を述べており、本文の主旨に合わない。いずれの誤答も、生徒は主観的に正しいと思えるような表現を選択してしまっている。

このような形式の問題に対応するためには、**文章の叙述を基に捉え、要旨を把握すること（中1 Cア）**がポイントであり、日頃から文章を読み、理解したことや考えたことを**報告したり文章にまとめたりする活動（中1 C言語活動ア）**を行うことで、文章を生徒自身の言葉で具体的な表現に置き換える訓練をさせていくことが有効であろう。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	イ（主張に説得力をもたせるため、～）	72	36	27	135	45.0
	誤答	エ（「物」という言葉の使われ方に～）	16	33	35	84	28.0
		オ（言葉を見つめることの意義に～）	9	18	17	44	14.7
		ウ（多くの人物名を出して科学の～）	2	8	10	20	6.7
		ア（先人たちの教えを現代の～）		5	8	13	4.3
		（その他）			1	1	0.3
		（無答）	1		2	3	1.0

筆者の論じ方の特徴を理解する問題である。正答はイ「主張に説得力をもたせるため、言葉との出会いについて筆者の考えに合う内容が述べられた文を引用している」で、正答率は45.0%、〈a－b c型〉を示している。

「どのような内容が書かれているか」だけでなく「どのように書かれているか」に着目する必要がある。すなわち、**観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること（中2 Cエ）**とあるとおり、42行目からの引用が主張を補強するためであることを理解することが重要である。

選択肢はいずれも最初の部分は本文の特徴に沿っている。このため、それぞれの選択肢を最後まで読んで確認する必要がある。特に誤答エは一見すると間違っていないように思われる。しかし、本文は言葉の「意味」を説明しているわけではない。さらに「物の存在」への着目から「言葉との

出会い」へと話題を絞り込んでいく流れは、エにある「視点を変えながら」「説明を繰り返している」という説明とは合わない。主張・主題を大づかみに、かつ的を外さず把握させる指導が求められる。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
<p>観点を明確にして、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える（中2Cエ）よりも、傍線部の周辺だけ読んで解答を見つけることができればよいというような、ドリル学習的な傾向が見られる。関心をもちにくかったり、想像しにくかったりする内容の場合は特に、意欲的に読解して本質をつかもうとする姿勢が見られない。</p>	
指導における改善の具体策	
<p>知識と情報を関連付けたり、情報やそこから導かれた自らの思考の正誤や適否を吟味したり検討したり、さらに新しい考えを生み出したりする（高・論理国語・目標）などの活動を通して、文章を論理的、批判的に読解し、創造的に考える力を養いたい。同時に、文章を問題文として読むだけでなく、生きた素材としてまるごと受け取るような経験をさせたい。こうした経験は、ひいては他者理解や異文化理解につながるのではないか。</p>	
<p>展開1</p>	<p>（ねらい：観点を明確にして、本文の内容を考える。）</p> <p>新聞記事の見出しにある言葉の意味や表現を基に、本文の内容を想像し、話し合う。内容を想像しやすくするために、必要に応じてリード文などを読む。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例：見出し 人口1人、議員7人の村 フランスの「ふるさと投票」を訪ねて</p> <p>リード文 フランスで3月にあった統一地方選。人口がたった1人の村で、7人の村議会議員が当選した。そして、再選された村長は、パリ在住という。いったいどうということなのか。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">（『朝日新聞』2020年7月24日朝刊国際面）</p> </div> <p>→ 選挙制度に関する記事であるという観点を把握した上で、過疎化や高齢化といった社会問題が話題に上るのではないか。民主主義の在り方や日本の「ふるさと納税」制度などにまで想像が及ぶかもしれない。</p>
<p>展開2</p>	<p>（ねらい：文章の構成や論理の展開を基に本文を読解する。）</p> <p>部分と全体、情報と結論との関連などを把握しながら本文を読解し内容を理解する。同時に、展開1で想像した内容との相違を確認する。</p> <p>→ 過疎化問題を打開する秘策なのか、これでも選挙と言えるのかなど、意見が飛躍するかもしれないが、まずは記事の趣旨である「村への愛着」を正確に読み取らせたい。</p>
<p>展開3</p>	<p>（ねらい：表現の意図や効果を考える。）</p> <p>展開2の読解を基に、見出しの表現について考えたり、別の見出しを考えたりする。</p> <p>→ 耳目を集め問題提起するという意図が端的に表現されていることに気付かせたい。</p>
<p>発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展開の読解を基に、感想を話し合ったり、なぜ日本の新聞にこうした話題が掲載されるのかを考えたりする。 ・ さまざまな記事を的確に読解し、主題が端的に伝わる見出しを付ける。 ・ 身近な出来事について、記事を書いたり見出しを付けたりする。

(2) 大問 [二] 現代文 (文学的文章) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	オ (おばあちゃんの言うことが納得できず, ~)	70	53	34	157	52.3
	誤答	ア (おばあちゃんの言葉を素直に~)	27	33	36	96	32.0
		エ (おばあちゃんの話に賛同する一方, ~)	1	9	15	25	8.3
		イ (おばあちゃんが嘘をついていると思い, ~)	1	4	10	15	5.0
		ウ (おばあちゃんは間違っているが, ~)	1	1	5	7	2.3

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はオ「おばあちゃんの言うことが納得できず, もっと追及したいという心情」で, 正答率は52.3%, <a - b - c型>を示している。

2行目で祖母が悪魔を防ぐ方法として述べた「精神を鍛える」ことは, 「体力を養う」方法のように感じ, 腑に落ちない「まい」は, 11行目「でも～」と祖母に質問をする。「ほとんどおんなじ」という祖母に対し, 「まい」は傍線部「更に食い下がった」。「食い下がる」という言葉は「どこまでも相手にしがみついて離れない。粘り強く追及する」という意味である。傍線部直後に「そんな簡単なことで～」と言っているように, 「まい」は精神を鍛えることで悪魔が防げるとは思えず, 祖母に質問を重ねるのである。この「まい」の祖母の言葉に対する心情が理解できれば, 正答に至る。

a群でもアを選択した生徒が多い。傍線部直後の「おばあちゃんの言うとおりの」という「まい」の言葉から, 「まい」は祖母の言葉を素直に受け入れたと考えたのではないだろうか。

本問では, 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えること (中1 Cイ) がポイントである。誤答を選んだ生徒は, 「食い下がる」の意味を理解していない, 若しくは無視したと考えられる。一つ一つの言葉の意味を大切に, 本文と照らし合わせて読む力を育む指導が必要であり, 事象や行為, 心情を表す語句の量を増すこと (中1 (1)ウ) も重要だと言える。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	イ (『まい』には, 規則正しい生活を~)	75	67	44	186	62.0
	誤答	オ (『まい』にとって, 何かを自分で~)	21	19	30	70	23.3
		エ (『まい』が悪魔を防ぐためには, ~)	3	12	16	31	10.3
		ウ (『体力を養う』ことと『精神を鍛える』~)	1	1	6	8	2.7
		ア (魔女になるためには, 悪魔を防ぐための~)		1	3	4	1.3
		(無 答)			1	1	0.3

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はイ「『まい』には, 規則正しい生活を送ることが困難だという点」で, 正答率は62.0%, <a b - c型>を示している。

傍線部「まったくそのとおりの」とは, 20行目「『まいは, そんな簡単なことっていいですけど, そういう簡単なことが, まいにとってはいちばん難しいことではないかしら』」という祖母の言葉についての「まい」の心情である。20行目「そんな簡単なこと」が16行目「そんな簡単なこと」を指し, それは5行目「規則正しい生活をする」ことである。指示内容を正確にたどっていくことが必要となる。「まい」と祖母の言葉の応酬を正確に読み取ることができれば正答に至る。

本問では, 場面の展開や登場人物の相互関係, 心情の変化などについて, 描写を基に捉えること (中1 Cイ) がポイントとなる。傍線部直前だけでなく, 文章全体の構成や展開を理解する力を育む指導を行っていく必要があり, エやオを選択した生徒はその力が不足している。a群でも一定数いることから, すべての層の生徒に対して丁寧な読みを促していくことが重要である。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	エ (おばあちゃんから午後は自由に～)	41	35	35	111	37.0
	誤答	ア (午前掃除や洗濯などの家事を～)	58	64	47	169	56.3
		イ (毎日早寝早起きをし～)		1	10	11	3.7
		オ (いつも寝つきが悪く困っていたが～)	1		5	6	2.0
		ウ (おばあちゃんに夜更かしを～)			1	1	0.3
		(無 答)			2	2	0.7

文脈に即して登場人物の心情が変化した理由を理解する問題である。正答はエ「おばあちゃんから午後は自由に時間割を組んでいいと言われ、自分で決めたことならできそうだったから」で、正答率は37.0%、群間差の小さい〈a b c型〉を示している。

誤答アを選んだ生徒は、18行目「いちばん大切なのは～自分で決めたことをやり遂げる力」という祖母の言葉を見落としており、傍線部直前の祖母の言葉「自由」「何でもいい」という点だけに注目してしまったと思われる。「まい」は今の自分に規則正しい生活を送ることができるのかという不安を抱えていたのであって、好きなことを自由にしたかったわけではない。祖母との会話の中で、実行可能な範囲で具体的な生活のスケジュールが定まっていき、傍線部に至って「まい」の不安は解消され、自分が決めた規則正しい生活ならできそうだという光明を見いだしたのである。このような文章の流れを的確に読み取ることができれば正答に至る。

本問では、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定を捉えること(中2Cア)や、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること(中2Cイ)が重要である。各群で誤答アを選んだ生徒が最多となったことから、文章の部分を正しく読みつないで全体を把握する力や、全体の解釈を部分の読解に生かす力を身に付けさせる指導が求められる。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ (不安を抱えている「まい」に対し～)	87	67	54	208	69.3
	誤答	ア (怠けぐせのある「まい」に対し～)	8	15	17	40	13.3
		オ (反抗的な「まい」に対し～)	5	16	9	30	10.0
		イ (不信感を募らせる「まい」に対し～)		1	11	12	4.0
		ウ (意志の弱い「まい」に対し～)		1	6	7	2.3
		(無 答)			3	3	1.0

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はエ「不安を抱えている『まい』に対し、課題を克服できるように後押ししていこうとしている」で、正答率は69.3%、〈a - b - c型〉を示している。

37行目「おばあちゃんは励ますように言った」や、73行目「『私は、まいの意志の力が弱いと思ったことはありませんよ』」から、「まい」を応援したいという祖母の心情を読み取ることができれば正答に至る。誤答アを選んだ生徒は、「まい」が規則正しく生活するのが苦手だということを、「怠けぐせ」だと取り違えたと考えられる。また、誤答オを選んだ生徒は、「まい」が祖母に何度も質問をしたり、23行目「唇をとがらせ」た様子を「反抗的」だと見なしたのであろうか。

本問でも、問三に挙げた文章全体と部分との関係に注目しながら、登場人物の設定を捉えること(中2Cア)や、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること(中2Cイ)が重要となる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	ウ（～前向きに取り組もうとしている。）	96	91	68	255	85.0
	誤答	イ（～安心して満足している。）	2	3	12	17	5.7
		エ（～やり抜こうと決意をしている。）	1	5	8	14	4.7
		ア（～すっかり諦めて意気消沈している。）		1	6	7	2.3
		オ（～まったくやる気を喪失している。）			4	4	1.3
		（無 答）	1		2	3	1.0

文脈に即して登場人物の心情を理解する問題である。正答はウ「意志の力をつけることの難しさを理解し、自信はないものの前向きに取り組もうとしている」で、正答率は85.0%、高位の〈a b - c 型〉を示している。

本問で正答に至るには、「まい」の発言や行動から心情を読み解く必要がある。本文での「まい」と祖母の会話は、73行目『私は、まいの意志の力が弱いと思ったことはありませんよ』との祖母の言葉に対し、「まい」が『私は弱いと思う』と力なく言う、これが最後である。この「まい」の発言を重視すると、誤答アやオを選んでしまいそうである。しかし「まい」は、この直後に時間割を考えている。この「まい」の行動と、これまでの祖母とのやり取りから総合的に判断し、「前向きに取り組もうとしている」と考えられるのである。本問では、**場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること（中1Cイ）**がポイントとなる。この力は、a・b群の生徒を中心に、多くの生徒に備わっていると言えよう。

ただし、同じく「心情の理解」が問われている問三の正答率は、問五と比較すると非常に低く、両者の結果に矛盾が生じてしまっている。見方によっては、問五で正答を選んだ生徒の中には、理想的な主人公像を求めてしまう傾向があつて、結果的に正答ウを選んだとも推測される。多様な登場人物の清濁含めた心情を、客観的に読み取る力を身に付けさせたい。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	この返事を（7行目）	90	69	34	193	64.3
	誤答	ありがたい・「ありがた（57行目）	5	3	11	19	6.3
		ただ、体力・「ただ、体（67行目）	1	6	11	18	6.0
		そしてまた（64行目）	1	8	1	10	3.3
		そうして、（62行目）	1	4	3	8	2.7
		（その他）	2	6	15	23	7.7
		（無 答）		4	25	29	9.7

文中の特色ある表現について理解する問題である。正答は「この返事を」で、「この返事を聞いたときのまいの気落ちを想像していただけるだろうか」の一文である。正答率は64.3%、〈a - b - c 型〉を示している。

本問では、**話や文章の種類とその特徴について理解を深めること（中3(1)ウ）、表現の効果について考えること（中2Cエ）**がポイントとなる。「作者が読者に直接語りかけている」のだから、地の文から探すか、正答以外は全て「まい」と祖母の行動や心情の説明である。一方、正答は「想像していただけるだろうか」と疑問文であり敬語も使用されている点から、作者が読者に語りかけている言葉だと言えるのである。誤答のほとんどは、祖母の発言の中から選ばれており、「祖母の言葉に託して作者が伝えたかったこと」を探す問題と誤解したとも考えられよう。古文でも、作者から読者への

語りかけはよく行われている。まずは、このような表現方法があることを知識として身に付けさせたい。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点	
<p>今回の分析から、文学的文章を読むに当たって、その場その場で部分的な解釈をするのみで、物語全体の流れを大きく捉えて部分の読解に生かす力が十分でないという問題点があることが確認された。</p>	
指導における改善の具体策	
<p>主人公の心の動きを可視化することによって、物語全体の流れを捉えさせたい。まずは主人公の心情が読み取れる箇所を抜き出し、それぞれにどのような気持ちかを考えさせる。心情には通し番号を付す。次に、横軸を「理性」、縦軸を「感情」とした座標を示し、適当な位置に通し番号を記入させる。心の動きの全体像を把握した上で、必要に応じて通し番号の位置を修正する。</p>	
<p>【指導展開例】</p> <p>〔展開①〕 〈個人活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公の心情を読み取ることが出来る箇所を抜き出して、ワークシートに記入する。 直接的な心情表現だけでなく、表情や言動など、間接的に心情が読み取れる箇所も加えるよう、留意する。 抜き出した箇所に、どのような気持ちかを記入した付箋を添付する。 <p>〔展開②〕 〈グループ活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 抜き出した箇所に通し番号を付し、横軸を「やるべきではないという理性」、縦軸を「やりたくないという感情」 「やってみよう」という感情」とした座標に、その番号を書き込む（生徒の実情に合わせて、横軸・縦軸の文言をグループ毎に考えさせても良い）。 全体像を把握し、必要に応じて通し番号の位置を修正する。 通し番号を線でつなぎ、心情の変化を確認する。 <p>〔展開③〕 〈グループ活動・全体活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ発表をする。大きく心情が変化したところを中心に、全体の心の動きを説明する。 他のグループの発表を聞き、感想を書く。 	<p>【ワークシート記入例】</p> <p>心のスイッチ〜気持ちはどこで切り替わる??</p> <p>【一】「まい」の気持ちを読み取る。</p> <p>① まいは曇りかけるように熱心に ② まいはしばらく黙っていたが、やがて深いため息をついた。 がっかり ③ まいも ④ このまじにはもう覚悟ができた。 ⑤ まいの目がぼつと、輝いた。 それならできよう! ⑥ 不安はあるけど頑張ろう ⑦ 午後、午後の時間割を考え ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭</p> <p>【二】「まい」の気持ちを座標に示してみよう。</p> <p>やるべきではないという理性 ← ② ③ ④ → やるべきだという理性</p> <p>← やりたくないという感情 ↑ やってみたいという感情</p> <p>【三】グループ発表をしよう。</p>

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一 (複数解答や無答は省略している)

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	エ (文化祭規約に違反せず, ~)	97	92	69	258	86.0
	誤答	ウ (間違いなくたくさんの客が~)	1	4	16	21	7.0
		オ (審査によって販売が~)	1	4	7	12	4.0
		ア (文化祭規約の第4条で~)	1		4	5	1.7
		イ (調理にかかる経費を~)			3	3	1.0

発言の意味を正確に理解する問題である。正答はエで、正答率は86.0%、高位の〈a b - c 型〉を示している。ほとんどの生徒が、必要な情報を的確に選び取っている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	イ (綿菓子だと、お店の飾りつけに~)	91	91	57	239	79.7
	誤答	ア (綿菓子だと、上手に形を整えて~)	7	8	22	37	12.3
		ウ (綿菓子だと、ゴミが多くなって~)	1		9	10	3.3
		オ (ポップコーンの方が、他のクラスと~)	1		9	10	3.3
		エ (ポップコーンの方が、綿菓子よりも~)		1	1	2	0.7

発言の根拠を理解する問題である。正答はイで、正答率は79.7%、〈a b - c 型〉を示している。誤答を選んだ生徒は、資料に書かれていない内容を選んでおり、意見と根拠の関係について理解すること (中2(2)ア) が求められる。資料を適切に読み取らせる指導が必要である。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	オ (販売する食品の、調理に必要な時間や~)	58	27	25	110	36.7
	誤答	ウ (模擬店を運営する際の、必要な食材や~)	20	34	36	90	30.0
		ア (模擬店を運営する際の、飾りつけや~)	16	27	23	66	22.0
		エ (販売する食品の、チケットの大まかな~)	3	9	5	17	5.7
		イ (模擬店を運営する際の、調理と~)	3	3	8	14	4.7

会話の流れを把握し、適切な資料から必要な情報を読み取る問題である。正答はオで、正答率は36.7%、〈a - b c 型〉を示している。まず、傍線部前後の会話から「企画書を提出する」ことが最優先事項であると読み取る必要がある。次に、【資料1】第4条(4)の「作業工程」を「明記する」ということを具体化した内容が選択肢オであると気付くことができれば、正答に至る。目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈すること (中2 C イ) が求められる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	ウ (生徒Bは、資料に基づいて話し合いに~)	77	52	35	164	54.7
	誤答	イ (生徒Aは、意見が対立した場合であっても~)	8	16	19	43	14.3
		ア (生徒Aは、自分の考えは言わないように~)	9	13	18	40	13.3
		エ (生徒Bは、他の生徒の発言に対して~)	1	6	16	23	7.7
		オ (生徒Bは、他の生徒の意見に同意しつつも~)	4	11	3	18	6.0

話し合いにおける生徒の役割を理解する問題である。正答はウで、正答率は54.7%、〈a - b - c 型〉を示している。誤答ア・イを選んだ生徒は、生徒Aの役割を大まかに捉えることはできている。しかし、選択肢前半の内容は、【会話】の流れを丁寧に読み込んでいくと、適切ではない。文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること (中1 C エ) が求められる。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	イ (□合法), オ (□課税)	42	25	12	79	26.3
	誤答	ウ (□秩序), オ (□課税)	23	27	13	63	21.0
		ア (□始末), エ (□成熟)	10	14	9	33	11.0
		ア (□始末), ウ (□秩序)	9	7	11	27	9.0
		(その他)	15	24	50	89	29.7
		(無 答)	1	3	5	9	3.0

否定の意味を示す接頭語についての問題である。正答はイとオで、正答率は26.3%、〈a - b - c型〉を示している。授業は勿論、日常生活においても多くの文章に触れることで、語彙を増やしていきたい。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ウ (すべてを完璧にしようとする必要はない。)	54	31	22	107	35.7
	誤答	イ (いろいろな場面で、自分の長所を生かしたい。)	8	21	37	66	22.0
		ア (今日の映画は短編だが、 <u>すごく感動した。</u>)	14	20	14	48	16.0
		オ (この書類は重要だ。 <u>なので、確認すべきだ。</u>)	20	15	13	48	16.0
		エ (やっぱり私の思った通りの結果であった。)	3	13	13	29	9.7
		(無 答)	1		1	2	0.6

話し言葉と書き言葉の表現の区別を問う問題である。正答はウで、正答率は35.7%、〈a - b c型〉を示している。文章を書く機会を増やし、生徒が自ら正しい言葉遣いに気付くよう指導したい。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ (しのばれる)	92	83	43	218	72.7
	誤答	オ (泣かれる)		9	17	26	8.7
		イ (話される)	1	1	22	24	8.0
		ウ (せき止められる)	6	6	10	22	7.3
		ア (載せられる)	1	1	7	9	3.0
		(無 答)			1	1	0.3

助動詞「れる・られる」の意味について問う問題である。正答はエで、正答率は72.7%、群間差の大きい〈a b - c型〉を示している。傍線部「思い出される」は自発を表していて、高校の古典文法につながる知識である。特にc群の生徒に文法を教えるときは丁寧に確認していく必要がある。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ (泰然自若)	44	23	10	77	25.7
	誤答	ア (思慮分別)	25	32	23	80	26.7
		ウ (当意即妙)	25	23	25	73	24.3
		エ (異口同音)	4	17	24	45	15.0
		オ (千載一遇)	2	5	14	21	7.0
		(無 答)			4	4	1.3

四字熟語についての理解を問う問題である。正答はイで、正答率は25.7%、〈a－b－c型〉を示している。四字熟語の読みや意味の暗記だけでなく、短文の作成を通して、四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うこと（中3(1)イ）の指導が必要である。

問六

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (1)	正答	依頼	97	75	41	213	71.0
	誤答	依□（□が別の字、または無表記）	1	10	14	25	8.3
		□頼（□が別の字）	1	7	7	15	5.0
		（その他）		2	4	6	2.0
		（無答）	1	6	34	41	13.7

「イライ」を漢字に直す問題で、正答率は71.0%、〈a－b－c型〉を示している。昭和51年度（正答率28.5%）、平成11年度（正答率48.7%）にも出題されたが、今回の正答率が最も高かった。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (2)	正答	起伏	48	22	4	74	24.7
	誤答	起復	12	7	3	22	7.3
		起□（□が別の字、または無表記）	18	16	5	39	13.0
		□伏（□が別の字、または無表記）	1	2		3	1.0
		（その他）	10	29	21	60	20.0
		（無答）	11	24	67	102	34.0

「キフク」を漢字に直す問題で、正答率は24.7%、低位の〈a－b－c型〉を示している。「起」は書くことができて、「伏」が書けていなかった。c群の生徒にとって、問六の中で正答率が最も低く、無答が6割超であった。日常生活で使用しない言葉であったと考えられる。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (3)	正答	控（える）	67	53	28	148	49.3
	誤答	据（える）	5	2	1	8	2.7
		抑（える）	5	1	1	7	2.3
		（その他）	7	10	10	27	9.0
		（無答）	16	34	60	110	36.7

「ヒカ（える）」を漢字に直す問題で、正答率は49.3%、〈a－b－c型〉を示している。昭和48年度（正答率36.0%）にも出題され、正答率が高まった。

小問	正誤	解 答 例	a群	b群	c群	合計	%
問六 (4)	正答	たんせい	65	52	16	133	44.3
	誤答	かんせい	2	1	21	24	8.0
		□せい（「たん」「かん」以外）	7	9	13	29	9.7
		（その他）	2	5	16	23	7.7
		（無答）	24	33	34	91	30.3

「嘆声」の読みを答える問題で、正答率は44.3%、〈a b－c型〉を示している。a・b・c群とも無答が多いため、日常生活では使用しない言葉であったようだ。知識の差が表れた問題であった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	こうむ(る)	70	41	9	120	40.0
	誤答	かぶ(る)	19	42	48	109	36.3
		やぶ(る)	6	11	34	51	17.0
		(その他)	5	6	3	14	4.7
		(無答)			6	6	2.0

「被(る)」の読みを答える問題で、正答率は40.0%、群間差の大きい〈a－b－c型〉を示している。平成12年度(正答率29.9%)より高かった。誤答で最も多い「かぶ(る)」は、「被」の読みとしては正しいが、本問では不適當である。文に即した漢字の読み方を身に付けさせたい。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	すその	30	19	6	55	18.3
	誤答	しや	21	29	40	90	30.0
		そや	24	9	2	35	11.7
		すや	6	11	3	20	6.7
		いや	4	6	5	15	5.0
		(その他)	12	18	17	47	15.7
		(無答)	3	8	27	38	12.7

「裾野」の読みを答える問題で、正答率は18.3%、低位の〈a－b－c型〉を示している。誤答のほとんどが「～や」と読んでおり、「裾野」という言葉自体に馴染みがない生徒が多いのではないかと推察される。また、c群は(4)に比べて(5)と(6)の正答率が低いため、訓読みの知識が乏しいと言える。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
問五の正解率が低いことから、四字熟語を適切に使いこなす力が不足していることが分かった。	
指導における改善の具体策	
四字熟語を含む短文の作成やその短文の読解を通して、四字熟語の意味やその使い方への理解を深める。	
展開1 (ねらい：四字熟語の正しい使い方の理解を深める) <ul style="list-style-type: none"> 四字熟語一覧表の中から、各自担当する四字熟語を教員が示す。 国語辞典や国語便覧を活用しながら、担当する四字熟語を含む短文を作成する。 グループ(3人程度)で、短文中の四字熟語の使い方が適切であるかを確認する。 短文を「読み札」に書き、四字熟語とその意味を「取り札」に書く。 	例 読み札 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 周りがどれだけ騒ごうとも、 彼だけは《たいぜんじじやく》としていた。 </div> 取り札(表) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content;"> 泰然自若 </div> 取り札(裏) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content;"> 何事にも動じず 落ち着いた様子 </div> *展開2に必要な枚数 分を作成する
展開2 (ねらい：四字熟語の適切な漢字表記を知り、意味の理解を深める。また四字熟語への親しみをもつ) <ul style="list-style-type: none"> クラスを6人程度のグループに分け、カルタ遊び(パターンⅠまたはⅡ)を行う。 	
【パターンⅠ】 <ul style="list-style-type: none"> 教員は「読み札」を読み上げ、プロジェクターで映し出す 生徒は適切な漢字で書かれた四字熟語の札を取る(誤字を含むダミー札を入れてもよい)。 	【パターンⅡ】 <ul style="list-style-type: none"> 教員は四字熟語部分を省略して「読み札」を読み上げる。 生徒は省略された四字熟語が書かれた札を取る(取り札を裏返し、意味から探し出してもよい)。

(4) 大問 [四] 古典 (古文) の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	したいおしめ	47	30	11	88	29.3
	誤答	したいをしめ	51	62	58	171	57.0
		訳 (残念に思ったが 等)			7	7	2.3
		その他	2	4	7	13	4.3
		(無 答)		4	17	21	7.0

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題である。正答は「したいおしめ」で正答率は29.3%, 〈a - b c〉型を示している。

本問で正答に至るには、まず傍訳から「したひ」と「をしめ」の2語に分解することと、語頭以外の「ハ」「ヒ」「フ」「ヘ」「ホ」を「ワ」「イ」「ウ」「エ」「オ」に直すことなど、文語のきまりについての知識が必要である。最も多かった誤答は「したいをしめ」であることから、「したひ」を「したい」に直すという文語の決まりは多くの生徒が理解できているといえる。しかし、「したひ」・「をしめ」を、「恋しく」・「残念に思った」という各傍訳と照合し、「慕ふ」「惜しむ」という語を導き出す過程に約半数の生徒が至っていないことがわかる。よって、傍訳や語注を積極的に活用しながら、単語としての語の働きに注目させる指導が必要となる。

これには、繰り返し音読をすることで、一つ一つの語を意識しながら文章を理解することも必要である。音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと (中1 (3) ア) について指導し、さまざまな作品に触れさせることで、語彙を豊かなものにしていきたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	オ (妻が 自分が朱買臣の言葉を～)	71	35	6	112	37.3
	誤答	ア (朱買臣が 妻が知らない間に別の人と～)	15	28	36	79	26.3
		エ (妻が 再会した朱買臣が新しい妻を～)	3	20	29	52	17.3
		ウ (妻が 出世した朱買臣が自分を罰すると～)	11	13	18	42	14.0
		イ (朱買臣が 自分が妻を説得することが～)		4	11	15	5.0

文脈に即して傍線部の心情に至る理由を理解する問題である。正答はオ「妻が 自分が朱買臣の言葉を信じられなかったから」で、正答率は37.3%, 群間差の大きい〈a - b c型〉を示している。

本問で正答に至るには、省略されている主語を的確に捉える必要があり、さらに、登場人物の心情についてその理由を文脈から読み取ることによって判断しなければならないため、高い読解力が求められる。文脈と照らし合わせ、本文と内容が一致しているのはオとアであるため、a群の生徒のほとんどが、文脈は正しく理解できているということが分かる。しかし、「どうして」の部分にだけ着目して、「誰が」という省略された主語を読み誤り、アを選んでしまったと考えられる。c群については、省略された主語ばかりか、文脈を読み誤っている生徒も多い。場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること (中1 Cイ) が正答に至る重要な力となるが、a群の生徒に比べ、b・c群の生徒はこのような力に課題があると考えられる。省略された主語や、話の流れを丁寧に読み解く姿勢を身に付けさせたい。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	住みわび	48	29	19	96	32.0
	誤答	別れ去り	37	48	25	110	36.7
		貧しかり	10	11	14	35	11.7
		消え入り	1	5	6	12	4.0
		暇をこふ	3	2	1	6	2.0
		その他	1	2	7	10	3.3
		(無 答)		3	28	31	10.3

二つの話から共通点を見つけ、空欄を補充する問題である。正答は「住みわび」で、正答率は32.0%、〈a—b—c型〉を示している。

二つの話を比較しながら、どのように対応しているかを丁寧に読み解く力が必要である。該当の語句には傍訳がついているので、語句の知識は必要なく対応関係を的確に押さえることができれば正答に至る。誤答例を見ると、二つの話を比較し、要旨を把握することはできているように見えるが、正答率が低かった理由として、正答の「住みわび」が空欄から離れた箇所にあったため、より空欄の近くにあった「別れ去り」や「消え入り」を選んだ生徒が多かったことが挙げられる。また、空欄の前の「同じく家を」という語を頼りに、1行目「家貧しかりけり」から「貧しかり」を選んだ生徒もいたようである。「誰が」「何を」「どうした」という点を正確に捉えられるように、**観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること（中2Cエ）**について指導していく必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	ウ（～再び夫婦の関係に戻ることを望んだ。）	97	87	45	229	76.3
	誤答	イ（～優しい呂尚父に戻ることを望んだ。）		3	21	24	8.0
		エ（～質素な生活に戻ることを望んだ。）	1	5	10	16	5.3
		ア（～夫婦の関係の解消を望んだ。）		2	13	15	5.0
		オ（～王の師を辞職することを望んだ。）	1	1	5	7	2.3
		(無 答)	1	2	6	9	3.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はウ「呂尚父がたいそう富み栄えたので、再び夫婦の関係に戻ることを望んだ」で、正答率は76.3%、〈a b—c型〉を示している。

傍線部「もとのごとく」の具体的な内容をつかむ必要がある本問では、内容を的確に読み取り、文脈に即して解釈する力が必要となる。夫婦関係において「もとのごとく」という語から正答に至るのは容易であり、a・b群の生徒は十分に内容を捉えられていると言えるだろう。一方c群については、文脈に即して内容を解釈する力が不足している。したがって指導の際には、本文全体を大きく捉えてから細部に着目することに課題があるということを念頭に置き、前後の文脈や内容まで正確に読み取るような姿勢を身に付けさせたい。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ（どうして～，住むことはできない。）	92	76	45	213	71.0
	誤答	オ（どうやって～，その方法が思いつかない。）	7	15	12	34	11.3
		ア（どうして～，住めないわけではない。）		5	8	13	4.3
		ウ（どうして～，ぜひ一緒に帰ろう。）		2	14	16	5.3
		エ（どうやって～，一緒に考えよう。）			15	15	5.0
		（無答）	1	2	6	9	3.0

文脈に即して傍線部の内容を理解する問題である。正答はイ「どうして元のように住むことができるだろうか，住むことはできない」で，正答率は71.0%，〈a－b－c型〉を示している。

本問で正答に至るには，傍線部の言葉の具体的な意味を本文全体に照らし合わせ，登場人物の設定について理解したり，文章の展開に即して登場人物の心情を考えたりする必要がある。

まず，第二段落の前半から，呂尚父と妻が離縁したが，妻が復縁を望むという文脈であることを理解する必要がある。そして，傍線部2行前の「土にこぼせる水，いかでか返し入れむ」という言葉の意味を，傍訳を参照しながら「土にこぼした水を，桶に返し入れることはできない」と解釈できると，呂尚父は復縁を望んでいないという内容の正答に至る。したがって，本問を解くにあたっては，**場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えること（中1Cイ）**や，**目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり，登場人物の言動の意味などについて考えたりして，内容を解釈すること（中2Cイ）**が重要となるため，人物関係の把握だけではなく，登場人物の言動を追いながら文脈を丁寧に理解させるなどの指導が求められる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ウ（朱買臣の妻も呂尚父の妻も，～）	65	33	7	105	35.0
	誤答	エ（朱買臣夫妻も呂尚父夫妻も，～）	24	32	32	88	29.3
		オ（朱買臣夫妻も呂尚父夫妻も，～）	7	18	23	48	16.0
		イ（呂尚父も呂尚父の妻も，～）	3	9	14	26	8.7
		ア（朱買臣も呂尚父も，～）		4	17	21	7.0
		（無答）	1	4	7	12	4.0

二つの話を対比させて本文全体の内容を理解する問題である。正答はウ「朱買臣の妻も呂尚父の妻も，思慮に欠け浅はかであったということ」で，正答率は35.0%，群間差の大きい〈a－b－c型〉を示している。

本文の内容のまとめとなる問題であるため，全体が適切に捉えられていれば正答に至る。a群の生徒は，**文章の叙述を基に捉え，要旨を把握すること（中1Cア）**がある程度備わっているのに比して，b・c群の生徒は，そのような力が不足していることが分かる。また，問われている「心短き」の語の意味を単に「短気」と読み替えてしまったために，アやエに誤答が集中してしまったのかもしれない。文脈から判断すれば「心短き」が「我慢が足りない」という意味で，さらにそれぞれの妻二人に対する言葉であるということが分かる。全体を解釈してから細部に着目できなかった生徒は，「心短き」を，直前にある再び夫婦の関係に戻ることを拒否した呂尚父に対する言葉と読み誤っているようである。b・c群の生徒は細部の描写だけに注目している可能性もあるので，前述した力を養うため，現代語訳の理解だけにとどまる授業展開ではなく，要旨をまとめる学習を行う必要がある。さらに，他者の意見を聞いたり，発表したりする活動を通して，古文に親しむ姿勢を身に付けさせたい。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点

古典的文章の理解には、豊かな言語感覚と、知識の習得だけでなく、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること（中1Cイ）も必要である。古典的文章を読む際に、現代語訳に終始してしまうのではなく、人物の相互関係や心情の変化にまで思い及ぶように意識させたい。

指導における改善の具体策

登場人物の相互関係をまとめることで、文章全体を正確に捉える力を養う。また、発表や創作活動を通して、古典的文章に親しみ、深く追究する姿勢を身に付ける。

指導展開例

展開①〔ねらい：登場人物を把握し、大枠を捉える〕

- ・本文の音読【全体の活動】
- ・作品にタイトルをつける【個人の活動】

展開②〔ねらい：登場人物の相互関係を理解し、本文を細部まで考察する〕

- ・登場人物を抜き出し、相互関係を図示する【ペアワーク】
- ・本文を展開によって三つに分け、それぞれ主役・脇役を決める【ペアワーク】（★展開③の演劇へのステップ）

展開③〔ねらい：古典的文章を正しく読み取るだけでなく、親しむ姿勢を身に付ける〕

- ・本文を簡単な四コマ漫画にまとめる【個人の活動】
- ・まとめたものを他者に発表する【ペアワーク】
- ・同じ題材を使って、異なる方法でまとめ、発表する【グループワーク】（新聞・紙芝居・★演劇）
- ・展開①で付けた作品のタイトルを付け直す【個人の活動】

◆四コマ漫画を描いてみよう
（朱買臣）

省略			
（呂尚父）			
省略			

◆グループの発表の準備をしよう
発表の形態（新聞・演劇・紙芝居・スライドショー・他）
◆もう一度タイトルを考えよう
◆本当のタイトルは・・・「諸事を堪忍すべき事」

●第二段
（呂尚父）
二人の関係は・・・
（妻）

●第一段
（朱買臣）
二人の関係は・・・
（妻）

呂尚父・・・断る
≠
妻・・・復縁したい！

朱買臣
≠
妻・・・別の男と再婚

「ワークシート例」「十訓抄」下 八の九・十
ステップ① この話のタイトルを考えよう
朱買臣と呂尚父の離婚

ステップ② 登場人物を整理して、人物関係を図示しよう

このタイトルに決めた！
覆水盆に返らず。我慢できない妻たち。